

丹波の森づくりについて

■丹波の森宣言 昭和 63 年 9 月 1 日

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

- 1 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。
- 2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。
- 3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。
- 4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

■丹波の森構想 平成元年 3 月

丹波地域の美しい自然、暮らし、なりわい、人々の交流、生活空間、生活文化など住民を取り巻くすべての環境を「丹波の森」と位置づけ、丹波の森宣言で示された丹波の森づくり（地域づくり）の理念を具体化するため、住民や活動団体、行政等が一体となって、人と自然と文化の調和した地域づくりを推進していくための取組指針として策定されました。

《3つの基本理念》

○自然と共に生きる地域社会の実現

全地球的視点に立って自然界のルールを正しく理解し、人間も自然界の一員であることを認識して、自然とともに生きる地域社会の実現をめざします。

○潤いと安らぎのある地域社会実現

素晴らしいふるさとと景観をかけがえのない共有財産とする共通認識に立って、環境や景観の保全と創出を図り、潤いと安らぎのある地域社会の実現をめざします。

○活力ある開かれた地域社会の実現

地域風土を生かし、森の文化の十字路として、新しい丹波地域の文化を創造し、交流や地域特性を生かした産業の振興を図り、活力ある開かれた地域社会の実現をめざします。

■丹波の森構想評価・検証報告 平成 21 年 3 月

丹波の森構想評価・検証委員会は、丹波の森構想の継承・発展を目指した新たな展開として 9 つの提言を提案しています。

- 環境と経済が結びつくための仕組みづくり
- 恐竜・哺乳類化石などを活かした環境学習の拠点
- 安心・安全実現のためのコミュニティづくり
- 丹波の森エコミュージアム群の形成
- 丹波らしい景観の継承と創造
- 空き空間の戦略的活用
- 「丹波ブランド」の継承と創造
- 「食と農の産業クラスター」形成と、そのための「コア機能」の確立
- 地域連携による都市との交流と担い手の育成

■「丹波の森づくりの今後の方向性」の見直し 平成30年11月

生活者の視点から将来の暮らしをイメージし、今後の取組の方向性を再編しました。

- 普段は森のスローライフを満喫しています
- 休みには森の魅力をまるごと楽しんでいます
- 自分時間に森づくりを学び実践しています

「丹波の森」ロゴマークの決定

平成30年5月21日～7月20日まで募集し、海外や全国各地から185名361点の応募があり、実行委員やデザイナーによる審査を実施し、右記のマークに決定。

「丹波の森づくり30周年記念シンポジウム」会場で発表。

「丹波の森づくり30周年記念シンポジウム」の開催

平成30年11月18日 丹波の森公苑にて開催

